



木曽林務課だより

6月

新型コロナウイルス感染症の非常事態宣言が解除され、やっと学校への子供たちの登校も始まりました。そうした子供たちの山での植樹活動をお知らせします。

大桑中学校1年生 ヒノキを植えました!!

大桑中学校1年生14名が、5月末に大桑村有林内で、ヒノキ100本とイロハモミジ20本の植樹体験を行いました。

最初は急な勾配に「歩きづらいよお。」とためらっていた生徒さんたちですが、2人1組でペアになり、クワで穴を掘り、ヒノキのポット苗を植えていく作業を進めていくと、「家族でするタケノコ掘りより楽チンだー。」と楽しみながら植樹を進めていきました。

大桑中学校では、毎年、春に植樹、秋に間伐体験を行っていますが、植栽した場所は山深く、近年、植栽したヒノキをシカやカモシカに食べられる被害がありました。そのため、今年は植えたヒノキを防護するネットも設置しました。木を育てることは野菜などと違い、成長するまで何十年とかかる気の長い作業ですが、終わりの会である生徒さんは「今日作業をして改めて思いました。大きくなっても今日のように木で囲まれたところで暮らしたい。」ととても頼もしい意見を言ってくれました。

今回の植樹体験がそれぞれの心に残り、将来、地元林業の担い手になってくれると願っています。



足場を固めてクワをえいと!



急な斜面も慣れてくれば平気です!!



植栽と防護ネット設置が終わった山